

捨てられるおもちゃ

—ごみに含まれるおもちゃとかえっこバザールに集まるおもちゃから考える—

京都市ごみ減量推進会議 齋藤 友宣さいとう ともゆき

はじめに

私には3歳になる娘がありますが、おもちゃらしいおもちゃを買い与えたことがあまりありません。彼女自身があまりおもちゃでは遊ばず、生活用品や段ボールをおもちゃ代わりにすることを好むためですが、買わないのでおもちゃを捨てることもあまりありませんでした。正直なところ、ごみ量としても大した量ではないだろうと考えていましたが、2011年に京都市にある「京エコロジーセンター」が行うおもちゃの交換会「かえっこバザール」に関わり、山のようなおもちゃを目の当たりにし、その考えは吹き飛びました。そこで、おもちゃについてちょっと調べてみたことや、その後も個人的に関わり続けているかえっこバザールでの経験から、おもちゃごみについて簡単に紹介したいと思います。

かえっこバザールに集まるおもちゃたち

かえっこバザールには、いろいろなおもちゃがやってきます。使い込まれたものから、未使用品のようにきれいなものも持ち込まれます。某アンパンのキャラクターや、擬人化した列車のキャラクターなど、長く愛されているキャラクターおもちゃは、新たな持ち主が現れることも多いのですが、短期間で終了するテレビ番組のキャラクターおもちゃは番組終了とともに魅力がなくなるようで、「売れ残り」になることが多いようです。特筆すべきは、ファストフード店の景品おもちゃ

です。多くの人が「自分はもう使わない」ことからかえっこバザールに持込まれるのですが、大量に出回っているため、他の参加者にも貰われない状況になっています。いずれにしても、「使い捨て」されるおもちゃが少なからずあるということがかえっこバザールから見えてきます。

一言でおもちゃっていうけれど…

“おもちゃ”といってもさまざまな種類や流通形態があります。(社)日本玩具協会の販売統計ではおもちゃが13種類に分けられています¹⁾。さらに菓子とセットになった「玩菓」や、「ガチャガチャ」「ガチャポン」と呼ばれるカプセルトイも含めると、15種類に分けられています。これらには、すべてが子ども向けというわけではなく、雑貨やホビーなど主に大人向けと考えられる商品も含まれています。これに雑誌付録や映画の上映付録、ファストフード店のセットメニューにつくおもちゃ、広告・宣伝のためのものなどの「景品系おもちゃ」が加わります。

捨てられるおもちゃたち

日本ではどのくらいのおもちゃが作られ、廃棄物になっているのか、その量や中身が気になるところです。おもちゃの生産量や販売量は、経済産業省の生産統計や(社)日本玩具協会の販売量統計などがあります。しかしながら、いずれも“ロット”単位、“販売額”単位で物量は不明です。景品系おもちゃに至ってはまったくわからない状況ですが、その代表ともいえる日本マクド

ナルド(株)の「ハッピーセット」は、なんと年間約1億個販売されているそうです²⁾。

いっぽうで、ごみの中にどのくらいおもちゃが混じっているのかについては、家庭ごみの京都市調査結果があります。この調査品目として「おもちゃ・スポーツ用品等」の項目があります。過去3回の調査結果は表1のとおりです。年によりばらつきが大きいのですが、3年平均で0.25%程度が家庭ごみに含まれています。京都市の家庭ごみの内、燃やすごみの総量は同じく3年平均で216,054ton/年のため、単純に計算すると、京都市だけでおおむね550ton/年のおもちゃ等がごみとして捨てられていることになります。これを市内の3歳～12歳までの子ども数約115,000人³⁾

分類		2008年	2009年	2010年	3年平均
繊維類	人形・ぬいぐるみ	0.13	0.12	0.01	0.09
プラスチック類	おもちゃ・スポーツ用品等	0.15	0.24	0.05	0.15
金属類	日用品 おもちゃ	0.04	—	0.02	0.02
合計		0.32	0.36	0.08	0.25

表1 家庭ごみに含まれるおもちゃ類
(湿重量ベース) (%)
2008年～2010年 京都市調査結果より



写真1 家庭ごみに含まれているおもちゃごみ(2009年)
copyright もったいないごみを伝えるごみ図鑑編集委員会 (神谷 潔)

で割ると、子ども1人あたり約4.7kg/年のおもちゃ等が捨てられていることになります。手元にある片手でつかめるくらいの人形をはかると2.5kg/個。子ども用の鈴の楽器が60g/個になるので、4.7kgというおもちゃ数個にはなりそうです。

ちなみに、家庭ごみの調査では驚くほどきれいなおもちゃが捨てられていることもあります(写真1)。

おもちゃをみんなで利用する

捨てられるおもちゃを減らしていくためには、「買わない」「もらわない」ことが一番です。なかなか難しいところですが、放送期間の短いテレビキャラクター商品や、景品系おもちゃ、部品がなくなると遊べなくなるおもちゃは、おもちゃとしての寿命が短いといえるので持たないようにすることはできそうです。といっても、子どもは、どうしても年齢により興味が変わっていくため、1人の子どもが長期間使うおもちゃはそれほど多くありません。そこで、おもちゃのリユースが対策としてあげられます。かえっこバザールはその方法の一つだと思います。

余談ですが、某ファストフード店の景品おもちゃは電池フタに特殊なネジ山のネジを使用し、電池の取り出しが困難です。一般の子ども用のおもちゃも安全のため電池フタがネジ留めされていますが、普通のネジ山で大人なら交換ができます。景品おもちゃの短い電池寿命÷おもちゃの寿命になってしまっている点や分別困難になっている点は改善の余地がありそうです。

参考文献

- 1) ㈱日本玩具協会：2010年度玩具市場規模調査結果データ、http://www.toys.or.jp/2010_sjiyoukibo_gangu.html
- 2) 日本マクドナルド(株)プレスリリース：日本マクドナルド「ハッピーセット」の年間販売数が史上初1億個を突破！、<http://www.mcd-holdings.co.jp/news/2007/company/20071227.html> (2012年03月20日閲覧)
- 3) 平成22年度京都市住民基本台帳人口(年齢別)より3歳～12歳の人口114,913人